



PUBLIC (PUBLIC)

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite

Document Version: 4.2 Support Package 9 – 2021-04-29

Patch 9.x Update Guide

Content

1	ドキュメント履歴.....	3
2	Introduction.....	4
2.1	このドキュメントについて.....	4
	制約.....	4
	変数.....	4
	用語.....	5
3	Planning.....	8
3.1	アップデートパッケージのダウンロード.....	8
3.2	プラットフォームのサポート.....	9
3.3	パッチの言語サポート.....	10
3.4	前提条件.....	10
3.5	制限事項.....	12
3.6	インストールされているバージョンの確認.....	13
4	Installation scenarios.....	14
4.1	複数の SAP BusinessObjects 製品を含むシステムへのアップデートの適用.....	14
4.2	Web アプリケーションの更新.....	14
4.3	並列更新.....	15
4.4	web.xml ファイルの変更の保存.....	16
4.5	ONE Installer を使用する.....	17
5	Windows でのアップデートインストール.....	18
5.1	Windows に BI プラットフォームサーバのアップデートをインストールする.....	18
5.2	Windows でクライアント製品アップデートをインストールする.....	20
5.3	Silent installation on Windows.....	20
	Windows で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する.....	20
5.4	Windows でアップデートをアンインストールする.....	22
6	UNIX でのアップデートインストール.....	24
6.1	UNIX に BI プラットフォームサーバのアップデートをインストールする.....	24
6.2	Silent installation on UNIX.....	26
	UNIX で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する.....	26
6.3	UNIX でアップデートをアンインストールする.....	28

1 ドキュメント履歴

以下の表は、重要なドキュメント変更の概要です。

バージョン	日付	説明
BI プラットフォームパッチ 1.x	2015 年 12 月	このドキュメントの初版です。
BI プラットフォームパッチ 2.x	2016 年 4 月	新しいライセンスキー要件についての情報を追加: Windows に BI プラットフォームサーバのアップデートをインストールする [18 ページ] 、UNIX に BI プラットフォームサーバのアップデートをインストールする [24 ページ] 、Windows で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する [20 ページ] 、UNIX で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する [26 ページ]
BI プラットフォームパッチ 3.x	2016 年 9 月	Business Intelligence プラットフォームサポートパッケージ 3 (SP3) のドキュメントブランドが更新されました。 ドキュメントの導入部このドキュメントについてが変更されました。
BI プラットフォームパッチ 4.x	2017 年 6 月	Business Intelligence プラットフォームサポートパッケージ 4 のドキュメントカバーページブランドが更新されました。 ドキュメントの導入部このドキュメントについてが一部修正されました。

2 Introduction

2.1 このドキュメントについて

このドキュメントは、SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 製品 のインストール、およびメンテナンスを行うシステム管理者または IT プロフェッショナルを対象にしています。

アップデートに関する適切なガイドの選択

アップデートのタイプ	SAP Help Portal に用意されているガイド
最新のマイナーリリースによる BI Suite のアップデート (4.0 または 4.1 リリースへの 4.2 のインストールなど)。 (フルビルドとアップデートビルドの両方として提供されます)。	BI プラットフォームマイナーリリースアップデートガイド
新しいサポートパッケージによる現在のインストールの更新 (フルビルドとアップデートビルドの両方として提供されます)。	サポートパッケージアップデートガイド
利用可能な最新パッチによる BI プラットフォームの 4.2 SPxx ('xx' は最新) バージョンの更新 (アップデートビルドとしてのみ提供されます)。	パッチアップデートガイド
BI 4.2 SP06 Patch100 以上のパッチには、新規インストールでもアップデートインストールでも、ONE Installer パッケージを使用してください。	

2.1.1 制約

このガイドでは、ホスト オペレーティング システムのセットアップ方法、サポートされているデータベース、Web アプリケーション サーバー、または Web サーバについて説明していません。専用のデータベース、Web アプリケーションサーバ、または Web サーバを使用する場合、BI プラットフォームをインストールする前にこれをインストールし機能させておく必要があります。これらのコンポーネントのインストールとアップグレードの詳細については、各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

2.1.2 変数

以下の変数は、このマニュアル全体を通して使用しています。

変数	説明
<INSTALLDIR>	BI Suite のインストールディレクトリ。 Windows マシンの場合、デフォルトのディレクトリは C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\ です。

2.1.3 用語

BI プラットフォームのドキュメントでは、次の用語が使用されます。

用語	定義
アドオン製品	BI プラットフォームで動作する一方、独自のインストールプログラムがある製品で、SAP BusinessObjects Explorer などがあります。
監査データストア (ADS)	監査データを保存するために使用されるデータベースです。
BI プラットフォーム	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームの略語です。
バンドルされたデータベース、バンドルされた Web アプリケーションサーバ	BI プラットフォームに同梱されているデータベースまたは Web アプリケーションサーバのことです。
クラスタ (名詞)	1 つの CMS データベースを使用し、同時に動作する 2 つ以上の Central Management Server (CMS) です。
クラスタ化する (動詞)	クラスタを作成することです。 たとえば、クラスタを作成するには以下の手順に従います。 1. マシン A に CMS および CMS データベースをインストールします。 2. マシン B に CMS をインストールします。 3. マシン B の CMS がマシン A の CMS データベースを使用するように指定します。
クラスタキー	CMS データベースでキーを解読するのに使用されます。 CCM を使用してクラスタキーを変更できますが、パスワードのようにキーをリセットすることはできません。暗号化されたコンテンツが含まれており、紛失しないようにすることが重要です。
CMS	Central Management Server の略語です。

用語	定義
CMS データベース	BI プラットフォームに関する情報を保存するために CMS で使用されるデータベースです。
デプロイメント	1つ以上のマシンにおいてインストール、設定、実行されている BI プラットフォームソフトウェアのことです。
インストール	インストールプログラムによって1つのマシン上に作成される BI プラットフォームファイルのインスタンスです。
マシン	BI プラットフォームソフトウェアがインストールされるコンピュータです。
メジャーリリース	4.0 のような、ソフトウェアのフルリリースです。
移行	BI コンテンツを以前のメジャーリリース (XI 3.1 など) から、アップグレード管理ツールを使用して移行するプロセスです。 この用語は、同じメジャーリリースのデプロイメントには適用されません。昇格を参照してください。
マイナーリリース	4.2 のような、ソフトウェアの一部のコンポーネントのリリースです。
ノード	同じマシンで実行され、同じ Server Intelligence Agent (SIA) で管理される BI プラットフォームサーバのグループです。
パッチ	特定のサポートパッケージバージョンの小規模な更新です。
昇格	BI コンテンツを同じメジャーリリース (4.0 から 4.0 など) のデプロイメント間で、プロモーションマネジメントアプリケーションを使用して移行するプロセスです。
サーバ	BI プラットフォームのプロセスの1つです。サーバは、1つ以上のサービスをホストします。
Server Intelligence Agent(SIA)	サーバの停止、起動、起動など、サーバのグループを管理するプロセスです。
サポートパッケージ	マイナーリリースまたはメジャーリリースに対するソフトウェアの更新です。
Web アプリケーションサーバ	動的コンテンツを処理するサーバです。たとえば、4.2 用にバンドルされた Web アプリケーションサーバは Tomcat 8 です。
アップグレード	移行プロセスを完了するために必要な計画、準備、移行、後処理のことです。

用語	定義
ONE Installer	ONE Installer は、サービスパッケージまたはパッチのフレッシュインストール、パッチからパッチへの更新、サービスパッケージからパッチへの更新などの複数の BI インストールシナリオをサポートする単一のインストールパッケージです。

3 Planning

3.1 アップデートパッケージのダウンロード

個別のフルインストールプログラムを持つ各 BI Suite 製品では、個別のアップデートパッケージを使用できます。以下の手順の表を参照して、ご使用の製品向けの適切なパッケージを特定してください。

1. <https://support.sap.com/home.html> > [ソフトウェアダウンロード] に移動します。
2. [ソフトウェアダウンロード] タブで、[サポートパッケージとパッチ] を選択します。
3. [サポートパッケージとパッチ] タブで、[製品のアルファベット順リスト] を選択します。
4. 以下のように、製品にナビゲートします。

アップデートパッケージ	パス
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームサーバ [1]	▶ B ▶ SBOP BI platform (former SBOP Enterprise) ▶ SBOP BI PLATFORM (ENTERPRISE) ▶ SBOP BI PLATFORM 4.2 ▶ SBOP BI PLATFORM SERVERS 4.2 ▶
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームクライアントツール [1] [2]	▶ B ▶ SBOP BI platform (former SBOP Enterprise) ▶ SBOP BI PLATFORM (ENTERPRISE) ▶ SBOP BI PLATFORM 4.2 ▶ SBOP BI PLATFORM CLIENTS 4.2 ▶
SAP Crystal Reports 2016	▶ C ▶ CRYSTAL REPORTS ▶ SAP CRYSTAL REPORTS 2016 ▶ SAP CRYSTAL REPORTS 2016 ▶ [1]
SAP Crystal Reports for Enterprise	▶ B ▶ SBOP BI platform (former SBOP Enterprise) ▶ SBOP BI PLATFORM (ENTERPRISE) ▶ SBOP BI PLATFORM 4.2 ▶ CR FOR ENTERPRISE 4.2 ▶
SAP BusinessObjects Live Office	▶ B ▶ SBOP BI platform (former SBOP Enterprise) ▶ SBOP BI PLATFORM (ENTERPRISE) ▶ SBOP BI PLATFORM 4.2 ▶ SBOP LIVE OFFICE 4.2 ▶
SAP BusinessObjects Dashboards	▶ D ▶ SBOP DASHBOARDS (XCELSIUS) ▶ SBOP DASHBOARDS 4.2 ▶ SBOP DASHBOARDS 4.2 ▶
SAP BusinessObjects Explorer	▶ E ▶ SBOP EXPLORER ▶ SBOP EXPLORER 4.2 ▶ SBOP EXPLORER 4.2 ▶

- [1] SAP BusinessObjects Edge Business Intelligence もこのアップデートパッケージの対象です。
- [2] 次のようなクライアントツールがあります。
 - Web Intelligence リッチ クライアント
 - ビジネスビューマネージャ
 - レポート変換ツール
 - Web サービスクエリツール
 - ユニバースデザインツール

- Query as a Web Service
- インフォメーションデザインツール
- トランスレーションマネジメントツール
- データフェデレーション管理ツール
- SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム向けウィジェット
- 開発者用コンポーネント:
 - SAP BusinessObjects BI プラットフォーム Java SDK
 - SAP BusinessObjects BI プラットフォーム Web サービス SDK
 - SAP BusinessObjects BI プラットフォーム .NET SDK
 - SAP Crystal Reports Java SDK
 - SAP BusinessObjects セマンティクレイヤ Java SDK

5. プラットフォームを選択します。

6. アップデートパッケージを選択し、Web サイトの説明に従ってパッケージをダウンロードおよび抽出します。

パッチのバージョンは、[タイトル] 列に一覧表示されます。

ソフトウェアのダウンロードには時間がかかることがあります。システム管理者に連絡して、会社のファイアウォールがダウンロード処理を終了しないようにする必要があります。

⚠ Caution

BI 4.2 サポートパッケージ 4 では、BI プラットフォームのコンパイラバージョンがアップグレードされています。BI プラットフォームのアドオン (BI プラットフォーム向け Lumira サーバ、Design Studio BI プラットフォームアドオン、および Analysis for Office BI プラットフォームアドオンなど) は、BI プラットフォームと強固に組み合わされているため、同一のコンパイラバージョンにアップグレードされている必要があります。プラットフォームのアップグレードを計画する場合は確実なガイドラインを参照するか、または SAP BusinessObjects BI 4.2 SP4 をアドオンと共にフレッシュインストールすることをお奨めします。詳細については、SAP ノート <https://launchpad.support.sap.com/#/notes/2467541> を参照してください。

📌 Note

BI 4.2 SP06 パッチ 100 以上からは、上記のナビゲーションで ONE Installer パッケージがアップロードされます。ONE Installer は新規インストールとアップデートインストールの両方に使用することができます。詳細については、この SAP ノート [2671301](#) を参照してください。

3.2 プラットフォームのサポート

次の表に、各アップデートパッケージがサポートするプラットフォームを示します。

アップデートパッケージ	Windows	AIX	Solaris	Linux
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームサーバ	✓	✓	✓	✓

アップデートパッケージ	Windows	AIX	Solaris	Linux
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームクラ イアントツール	✓			
SAP Crystal Reports 2016	✓			
SAP Crystal Reports for Enterprise	✓			
SAP BusinessObjects Live Office	✓			
SAP BusinessObjects Dashboards	✓			
SAP BusinessObjects Explorer	✓	✓	✓	✓

3.3 パッチの言語サポート

パッチには英語の文字列リソースのみが含まれ、パッチに含まれるすべての文字列修正解決が英語で表示されます。文字列修正の翻訳は、次に提供される修正を含むサポートパッケージに追加されます。

3.4 前提条件

アップデートをシステムに適用する前に、次の計画手順を実行することをお勧めします。

- 4.0、4.1、または 4.2 デプロイメントから 4.3 または 4.3 SP1 デプロイメントに更新する場合は、CMS データベースをバックアップすることをお勧めします。4.3 アップデートをアンインストールしても、以前のデータベースは復元されません。手動で復元する必要があります。SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。
- 4.3 を 4.2 SP3 以下のバージョンに対するアップデートとしてインストールする場合、4.1 と 4.0 をすべて含めるには、4.3 バージョンに更新する前に、まず 4.2 SP4 以上のバージョンに環境を更新する必要があります。
ここでは、4.2 SP7 または 4.2 SP8 が推奨されます (ONE Installer を使用)。
- 既存の BI Suite デプロイメントをバックアップします。デプロイメントのバックアップの詳細については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

① Note

BI プラットフォーム CMS に IBM DB2 を使用している場合は、4.3 アップデートインストールプログラムを実行する前に、CMS システムデータベースのバックアップをとることをお勧めします。CMS データベースの破損を回避するために、アップデートインストール処理中は CMS データベースを起動して実行中にし、アップデートプロセスが中断しないようにしてください。

- インストールしたアドオン製品を含む BI Suite デプロイメントのすべての要素に、更新後の BI プラットフォームのバージョンとの互換性があることを確認してください。この情報は、製品出荷マトリックス (<https://support.sap.com/release-upgrade-maintenance/pam.html>) で確認できます。
- リリースの制約ドキュメントを参照して、リリースの重要な問題、制限事項、および回避策を確認します。
- 解決済み問題ドキュメントを参照して、アップデートで修正された不具合が自分のデプロイメントに関係があるかどうかを確認します。
- **制限事項 [12 ページ]**を確認してください。
- SAP BW デザインタイムの機能強化を有効化するには、*Business Intelligence* プラットフォームインストールガイドの *SAP Support for BW* を参照してください。
- 更新が必要なすべての SAP BusinessObjects 製品とコンポーネントを特定します。
独自のインストールプログラムを持つ各製品にアップデートが用意されています。**アップデートパッケージのダウンロード [8 ページ]**を参照して、必要なアップデートを確認します。
 - Windows では、インストール済みのアップデートは Windows の **プログラムの追加と削除**の一覧で確認することができます。
 - Unix では、インストール済みのアップデートは、`<INSTALLDIR>/modifyOrRemoveProduct.sh` を実行することで確認できます。
- このガイドの「インストールシナリオ」の節を確認します。
- Windows と UNIX の両方で、BI スイートパッケージの更新シナリオ用に、前提条件画面で新しいチェックボックスが追加されました。SAP Knowledge Base Article (KBA) [1794601](#) をレビューし、アップデートの続行に同意するよう求める警告メッセージが表示されます。

① Note

Windows - このチェックボックスが選択されている場合のみ、アップデートのインストールを続行することができます。

UNIX - 上記の KBA を読み、レビューした後、<Enter> キーを押します。

① Note

サポートパッケージのアップデートを基本インストールに適用するために不可欠な推奨事項、注意、およびトラブルシューティング情報を見落とすことがないように、以下の **SAP ノート**を参照してください。

- [2645113](#) - BI 4.2 SP06 のパッチアップデート時に 1 次キーが確実に追加されるための CMS テーブル CMS_RELATIONS7 からの重複レコードの削除 (Delete duplicate records from CMS table CMS_RELATIONS7 to ensure primary keys are added during patch update of BI 4.2 SP06)
- [2646873](#) - Oracle and Sybase ASE 向けの 4.2 SP6 のインストール時における 1 次キーの CMS テーブル (CMS_InfoObjects7, CMS_Sessions7, CMS_LOCKS7, CMS_RELATIONS7) への追加 (Adding primary key to CMS tables (CMS_InfoObjects7, CMS_Sessions7, CMS_LOCKS7, CMS_RELATIONS7) during 4.2 SP6 installation for Oracle and Sybase ASE)
- [2451830](#) - SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.2 SP04 のインストールまたは SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.2 SP04 へのアップデートを成功させるために必要な Windows のアップデート (Windows Updates needed for Successful Installation of / Update to SAP BusinessObjects BI Platform 4.2 SP04)
- [2467541](#) - SAP BusinessObjects BI 4.2 SP04 およびパッチ 1 リリース向けにサポートされる BI プラットフォームアドオンバージョンの情報 (Supported BI Platform Add-On versions information for the SAP BusinessObjects BI 4.2 SP04 and patch 1 release)
- [2477140](#) - アサーションの失敗 - BI アドオンのインストールにおける Visual C++ ランタイムライブラリのエラー (Assertion failed - Visual C++ Runtime Library error on installation of BI Add-ons)

- [1676695](#) – アサーションの失敗 - SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのランタイムのインストール時に shared_ptr.hpp の例外が発生しました。解決策が推奨されるかどうかは不明です。(Assertion Failed Exception for shared_ptr.hpp when installing runtimes for SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform)
- [2501036](#) – SQLAnywhere のインストールで RHEL 7.3 の SAP BusinessObjects 4.2 SP4 がハングしました。(SAP BusinessObjects 4.2 SP4 on RHEL 7.3 hangs at Installing SQLAnywhere)
- [2671301](#) – ONE Installer とは何か、どこで見つかるのか
- [1794601](#) – BI 4.x での計画更新の推奨/サポートの確認 [方法]
- インストール/更新アクティビティを開始する前に、以下のナレッジベース記事を参照して、ベストプラクティスおよび前提条件を見逃さないようにしてください。
 - KBA [1952120](#): BI のインストール/更新/パッチ適用時の Windows でのベストプラクティスおよび前提条件
 - KBA [2490588](#): BI のインストール/更新/パッチ適用時の Linux でのベストプラクティスおよび前提条件

3.5 制限事項

アップデートのインストールには、次の制限事項が適用されます。

- アップデートは製品全体のインストールではなくメンテナンスのインストールです。アップデートをインストールするには、SAP BusinessObjects 製品がインストールされている必要があります。ただし、BI 4.2 SP06 パッチ 100 以上からは、ONE Installer パッケージを新規インストールとアップデートインストールの両方に使用してください。
- アップデート全体をインストールする必要があります。アップデートの一部をインストールすることはできません。
- アップデートは、すでにインストールされている機能のみを更新します。例:
 - たとえば、更新するフルインストールがカスタムインストールである場合、アップデートをインストールすると、最初にインストールされたファイルのサブセットのみが更新されます。
 - リリースで新しい機能が導入された場合、それらはアップデートインストールプログラムによってはインストールされません。新しい機能を取り入れるには、インストールを変更する必要があります。インストールの変更方法については、*Business Intelligence Platform* インストールガイドで、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォームを変更するを参照してください。
- アップデートにより、すでにインストールされている言語パックのみに修正が適用されます。アップデートで導入された言語をインストールする場合は、フルインストールを実行する必要があります。BI 4.2 SP06 以上からは、BI プラットフォームのアップデート後に基本インストールを変更する代わりに、新しく導入された言語を BI プラットフォームのアップデート時にインストールすることができます。
- SAP BusinessObjects Suite デプロイメントのすべての製品を同じメンテナンスレベルにする必要があります。
 - デプロイメントの SAP BusinessObjects 製品の 1 つを更新する場合は、他のすべての製品も更新する必要があります。
 - デプロイメントの 1 つの SAP BusinessObjects 製品のアップデートをアンインストールする場合は、すべての製品の同じアップデートをアンインストールする必要があります。
 - 新しい SAP BusinessObjects 製品をインストールする場合は、デプロイメント内の他のすべての製品と同じバージョンになるまで、新しい製品にすべてのアップデートを適用してください。

- パッチは、特定のサポートパッケージレベルを対象としています。たとえば、ソフトウェアがサポートパッケージ 4 レベルの場合は、サポートパッケージ 5 向けのパッチをインストールすることはできません。パッチをインストールするには、サポートパッケージ 5 レベルにアップグレードする必要があります。
ただし、BI 4.2 SP06 パッチ 100 以上からは、サービスパッケージまたはパッチの新規インストール、パッチからパッチへの任意のアップデート、またはサービスパッケージからパッチへの任意のアップデートに ONE Installer パッケージを使用することができます。
- 同じサポートパッケージレベル向けのパッチは累積されています。そのため、同じレベルのサポートパッケージ向けの以前のパッチをインストールする必要はありません。
- アップデートインストールプログラムでは、バンドルされている Tomcat Web アプリケーションサーバに BI プラットフォーム Web アプリケーションを自動的に再デプロイできます。異なる Web アプリケーションサーバを使用している場合、アップデートのインストール後に WDeploy を使用して BI プラットフォーム Web アプリケーションを再デプロイする必要があります。
詳細については、[Web アプリケーションの更新 \[14 ページ\]](#)を参照してください。
- ユーザが使用して実行する同じインストールプログラムを使用して、応答ファイルを作成する必要があります。旧リリースまたはフルインストールとアップデートインストール間の応答ファイルを再利用することはできません。
詳細については、[Windows で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する \[20 ページ\]](#)または [UNIX で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する \[26 ページ\]](#)を参照してください。
- このインストールプログラムでは、SAP BusinessObjects Design Studio BI プラットフォームアドオンは更新されません。4.0 または 4.1 リリースを 4.2 リリースに更新する場合、Design Studio は動作しません。SAP ノート 1760372 <http://service.sap.com/notes> で説明されているように、Design Studio BI プラットフォームアドオンをインストールする必要があります。
- BI 4.2 サポートパッケージ 03 の Web Intelligence には、XI 2.x、XI 3.x、XI 3.1.x、BI 4.0.x および BI4.1.x の以前のバージョンの修正が含まれています。XI 3.x または BI 4.0 から BI 4.1 サポートパッケージ 03 に移行された Web Intelligence ドキュメントは異なる結果が表示される場合があります。考えられる相違点の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-39973>にあるホワイトペーパーを参照してください。

3.6 インストールされているバージョンの確認

次のいずれかの方法を使用して、インストールした BI プラットフォームのバージョンをチェックします。

- Windows デプロイメントの場合、プログラムの追加と削除 (ARP) を使用します
- Unix または Linux デプロイメントの場合、`modifyOrRemoveProducts.sh` を実行します。

BI 製品およびクライアントツール

▶ [ヘルプ](#) ▶ [バージョン情報](#) ▶ メニューから、BI プラットフォームクライアントツールおよび SAP Crystal Reports といった他の SAP BusinessObjects BI 製品の最新のバージョン情報を確認できます。

4 Installation scenarios

4.1 複数の SAP BusinessObjects 製品を含むシステムへのアップデートの適用

製品は相互に依存するため、すべての SAP BusinessObjects 製品を同じメンテナンス レベルにする必要があります。たとえば、SAP BusinessObjects Live Office および BI プラットフォームもインストールされているデプロイメントの SAP Crystal Reports にアップデートを適用する場合は、これらの 3 製品すべての 3 つのアップデートすべてを個別に適用して、すべての製品が同じメンテナンスレベルで実行されるようにする必要があります。

4.2 Web アプリケーションの更新

BI プラットフォーム Web アプリケーションを更新する方法は、使用している Web アプリケーションサーバの種類により異なります。

- バンドルされた Tomcat Web アプリケーションサーバを使用している場合、アップデートインストールプログラムを使用して BI プラットフォーム WAR ファイルが自動的に更新されます。追加の手順は必要ありません。
- バンドルされた Tomcat Web アプリケーションサーバを使用していない場合、アップデートインストールプログラムを使用して新規 WAR ファイルを <INSTALLDIR>/enterprise_xi40/warfiles/webapps) にインストールし、WDeploy を使用して WAR ファイルを Web アプリケーションサーバにデプロイします。複数のアップデートをインストールする場合は、最初にすべてのアップデートをインストールしてから、1度で再デプロイできる WAR ファイルの最終セットを最後に取得します。WDeploy の使用に関する説明については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム Web アプリケーションデプロイメントガイドを参照してください。

→ Remember

デプロイメント内のすべての BI プラットフォーム WAR ファイルを更新する必要があります。Web アプリケーションを含むすべての BI Suite コンポーネントを同じバージョンにする必要があります。

① Note

4.2、SP05 では、BI プラットフォームのインストール後のデプロイメントに対して Websphere 9 および Tomcat 9 のアプリケーションサーバがサポートされています。[SAP Help portal](#) で公開されている Web アプリケーションデプロイメントガイド (Windows/Unix 版)を参照してください。

4.3 並列更新

並列更新機能は 4.0 SP5 から導入されました。この機能によって複数のマシンで同時にアップデートインストールを実行できるようになり、分散デプロイメントの更新に必要な時間が大幅に短縮されます。1 度に 1 つのマシンのみを更新する必要はなくなります。

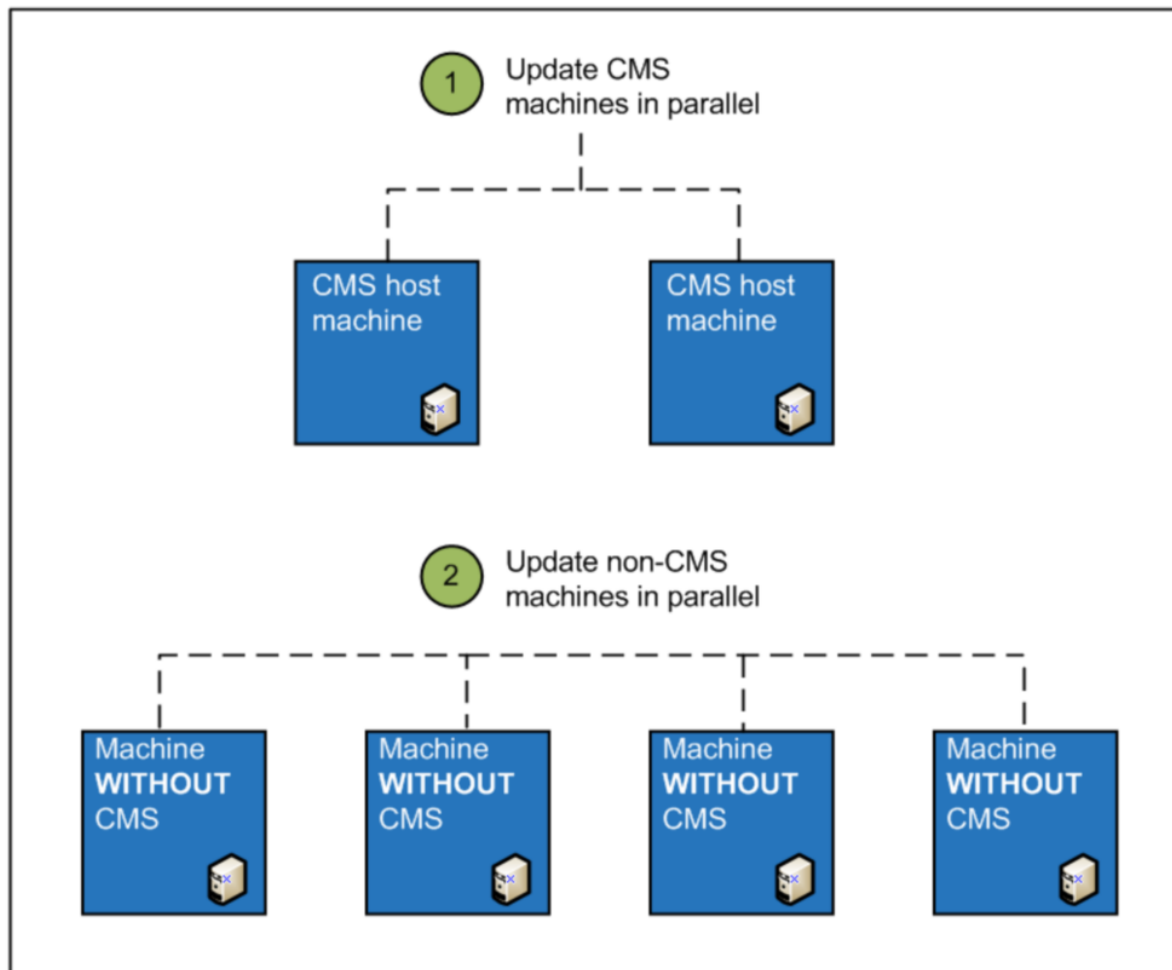
分散デプロイメントの並列更新を実行するには、次の順序でアップデートをインストールします。

1. すべての CMS ホストマシンでアップデートインストールプログラムを (同時に) 並列実行します。
 - 次のステップに進む前に、すべてのマシンの更新が終わるまで待機します。
 - CMS マシンを再起動する前に、すべての CMS マシンでアップデートインストールの実行が終了するまで待機します。アップデートインストールプログラムによって再起動を要求されても、すべての CMS マシンで更新が終了するまではマシンを再起動しないでください。
2. 非 CMS マシンの更新を開始する前に、少なくとも 1 台の CMS マシンが実行され、利用できることを確認してください。
3. すべての非 CMS マシンでアップデートインストールを並列実行します。
 - CMS へのログオンを要求されたら、ステップ 2 の CMS マシンを使用します。
 - 次のステップに進む前に、すべてのマシンの更新が終わるまで待機します。
4. すべての非 CMS マシンでアップデートのインストールが終了したら、すべての CMS マシンを再起動します。

この手順をデプロイメントのすべての製品に対して繰り返してください。これには、BI プラットフォーム、Explorer、クライアントツールなどが含まれます。製品が非 CMS マシンのみにインストールされている場合は、ステップ 1 と 2 をスキップできます。

① Note

- 更新中の非 CMS マシンに対し、少なくとも 1 つの CMS マシンを利用できる必要があります。
- 更新の開始時に稼働しているすべての CMS マシン、および更新中に起動した追加の CMS マシンを、更新の開始から終了まで利用できる必要があります。
- 更新の実行中に CMS マシンが再起動される可能性がある追加のインストール、保守、またはサーバ管理ワークフローは、実行しないでください。



4.4 web.xml ファイルの変更の保存

アップデートをインストールすると、Web アプリケーションサーバにデプロイされた Web アプリケーションの web.xml ファイルが上書きされます。つまり、Web アプリケーションサーバ上の web.xml ファイルを変更することによって実行したカスタマイズが、アップデートの適用後に消失します。

Web アプリケーションの web.xml ファイルを変更し、その変更を保持するには、BI プラットフォームインストールディレクトリで変更を行う必要があります。BI プラットフォームのインストールディレクトリ内の設定ファイルに加えられた変更は、パッチの際も保持されます。

Windows システムで、このディレクトリは、

`<INSTALLDIR>%SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0%\warfiles\webapps` です。

UNIX システムで、このディレクトリは、

`<INSTALLDIR>/sap_bobj/enterprise_xi40/warfiles/webapps` です。

アップデートの適用後、影響のある .war ファイルを再ビルドし、.war ファイルを Web アプリケーションサーバに再デプロイします。

4.5 ONE Installer を使用する

ONE Installer は、サービスパッケージまたはパッチのフレッシュインストール、パッチからパッチへの更新、サービスパッケージからパッチへの更新などの複数の BI インストールシナリオをサポートする単一のインストールパッケージです。

SAP BusinessObjects BI プラットフォームを使用していない場合は、BI リリースの最新の利用可能なサポートパッケージまたはパッチバージョンのフレッシュインストールに ONE Installer パッケージを使用できます。

フレッシュインストールシナリオと更新インストールシナリオの既存の個別のパッケージタイプとは別に、これは、フレッシュインストールシナリオと更新インストールシナリオの両方に対応する、4.2 SP06 で導入された新しいパッケージタイプです。このパッケージは、既存のパッケージとともに同梱されています。

ONE Installer の詳細については、*Business Intelligence Platform* インストールガイド (UNIX 版) と *Business Intelligence Platform* インストールガイド (Windows 版) を参照してください。

5 Windows でのアップデートインストール

アップデートのインストールを実行するには、Windows マシンの管理者権限が必要です。

このアップデートをインストールしているマシンのリソースを解放するには、アップデートをインストールする前に、セントラル管理コンソール (CMC) を使用して、マシン上のすべての BI プラットフォームサーバを停止します。ただし、以下を除きます。

- Server Intelligence Agent (SIA)
- Central Management Server (CMS)
- Input/Output File Repository Server (FRS)
- CMS システム データベース

これらのサービスおよびサーバーはインストールを続けるために動作し続ける必要があります。

① Note

この章の関連トピックとして、Windows アップデートインストールの前提条件とベストプラクティスに関する **SAP ノート** を参照してください。

サーバコンポーネントを含む製品を更新する場合は、CMS ログオン認証情報を入力する必要があります。これは、サーバー プロパティのローカライズされた文字列など、CMS データベースに格納されているコンテンツを更新するために必要です。

① Note

Secure Sockets Layer (SSL) が有効化されている場合は、インストールを続行できません。アップデートをインストールするマシンで、SSL が有効化されている場合は、インストールを行う前に SSL をオフにする必要があります。インストールの完了後に、SSL をオンに戻します。

Related Information

[前提条件 \[10 ページ\]](#)

5.1 Windows に BI プラットフォームサーバのアップデートをインストールする

1. `setup.exe` を実行してインストールを開始します。
インストールプログラムによって、BI プラットフォームアップデートをマシンにインストールできるようにする前提条件チェックが開始されます。
2. [\[前提条件のチェック\]](#) ウィンドウで、前提条件チェックの結果を確認します。インストールを続行する場合は、[\[次へ\]](#) を選択します。

3. **インストールウィザード**ウィンドウで、表示された指示を確認し、**Enter** キーを押します。
4. **[使用許諾契約]** ウィンドウで、エンドユーザ使用許諾契約の内容を確認して、使用許諾契約に同意し、**[次へ]** をクリックします。
5. **[新しいライセンスキー要件]** ウィンドウで、新しいライセンス要件の内容を確認して、チェックボックスを選択し、**[次へ]** を選択します。

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP2 以前のバージョンから、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP3 以降のバージョンにアップデートすると、既存のライセンスは無効なライセンスとして機能します。SAP Service Marketplace から SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 アップデートの新しいライセンスキーを申請する必要があります。<https://support.sap.com/keys-systems-installations/keys.html> にアクセスしてください。

新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-70095> にアクセスしてください。

システムを SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 アップデートに更新したら、セントラル管理コンソールにログオンして、古いライセンスキーを削除し、新しいライセンスキーを追加する必要があります。または、スクリプトを実行して、ライセンスキーを削除することができます。スクリプトによるキーの削除の詳細については、SAP ノート [2276413](#) を参照してください。

① Note

セントラル管理コンソールに新しいライセンスキーを追加するまで、特定のサーバは無効な状態です。

詳細については、**Business Intelligence** プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

6. アップデートにサーバコンポーネントが含まれている場合は、**[既存の CMS デプロイメント情報]** ウィンドウが表示されます。使用しているデプロイメントの CMS のホスト名、ポート番号、および管理者のパスワードを入力し、**[次へ]** をクリックします。
7. **インストールモードの選択**ウィンドウで、**[標準インストール]** ラジオボタンを選択します。
8. **Web アプリケーションデプロイメント**ウィンドウで、適切な Web アプリケーションデプロイメントのラジオボタンを選択します。

① Note

基本インストールにデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバが存在する場合、Business Intelligence プラットフォームインストーラに **[Web アプリケーションデプロイメント]** ウィンドウが表示されます。存在しない場合は、**[Web アプリケーションデプロイメント]** ウィンドウは表示されません。

- **[Web アプリケーションを今すぐデプロイします。]** ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツがデプロイされます。
 - **[Web アプリケーションを後でデプロイします。]** ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツはデプロイされません。
 - BI プラットフォームおよびその他のクライアント製品をインストールする場合は、**[Web アプリケーションを後でデプロイします。]** ラジオボタンを選択することをお奨めします。ご使用のシステムに最後のクライアント製品をインストールする場合は、**[Web アプリケーションを今すぐデプロイします。]** ラジオボタンを選択してください。これを選択すると、システムダウンタイムが全体的に短縮されます。
9. **[インストールの開始]** ウィンドウで **[次へ]** を選択してインストールを開始します。
アップデートインストールが開始されます。インストールが完了すると、完了画面が表示されます。この画面には、インストール後の指示が含まれています。

① Note

アップデートの一部として Web アプリケーションが更新される場合は、元の BI プラットフォームのインストール時に選択したオプションに応じて、インストール後のダイアログボックスに .war ファイルを再デプロイする手順が表示される場合があります。

10. **[完了]** を選択します。

5.2 Windows でクライアント製品アップデートをインストールする

この手順は、Windows 上で動作する BI プラットフォームクライアントツールのアップデートのインストールに使用されます。

⚠ Caution

クライアントツールの更新によって、InformationDesignTool.ini および TransMgr.ini ファイルが上書きされます。これらの .ini ファイルをカスタマイズしている場合は、インストールの開始前にほかのディレクトリにコピーを保存しておくことをお勧めします。

1. setup.exe を実行してインストールを開始します。
2. **[次へ]** をクリックします。
3. **[ようこそ]** ダイアログボックスで、**[次へ]** をクリックして進みます。
4. **[使用権許諾契約]** ダイアログボックスで、エンドユーザ使用許諾契約の内容を確認し、契約書の内容に同意する場合は、**[次へ]** をクリックして進みます。
アップデートにサーバコンポーネントが含まれている場合は、**[CMS]** ダイアログボックスが表示されます。
5. 使用しているデプロイメントの CMS のホスト名、ポート番号、および管理者のパスワードを入力し、**[次へ]** をクリックして先に進みます。
6. **[インストールの開始]** ダイアログボックスで、**[次へ]** をクリックしてインストールを開始します。
更新がインストールされます。インストールが完了すると、完了画面が表示されます。この画面には、インストール後の指示が含まれている場合があります。
7. **[完了]** をクリックします。

5.3 Silent installation on Windows

5.3.1 Windows で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する

更新は、応答ファイルを使用してサイレントインストールできます。

サイレントインストールは、特に、複数のインストールをすばやく実行したりインストールを自動化したりする場合に便利です。

応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行するには、まずセットアッププログラムを使用して .ini ファイルを作成する必要があります。 .ini ファイルを作成したら、.ini ファイルのパスを指定して setup.exe コマンドを実行することにより、サイレントインストールを実行できます。

① Note

応答ファイルを使用してサイレントインストールを実行している場合、対象となるアップデートまたはパッチのインストールパッケージから setup.exe ファイルを使用して応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルは、リフレッシュインストール、アップデートインストール、またはパッチインストールの間で共有することはできません。

1. インストール .ini ファイル (応答ファイル) を作成します。
 - a. コマンドラインコンソールを開きます。
 - b. SAP BusinessObjects の setup.exe ファイルが保存されているディレクトリから、書き込みオプション (-w) を指定して setup.exe コマンドを実行します。

```
setup.exe -w <responsefilepath%filename.ini>
```

<filename.ini> は、応答ファイルに付ける名前です。 <responsefilepath> は、作成した応答ファイルを保存する場所です。

① Note

ファイルパスが指定されていない場合、ファイルは setup.exe が実行されたディレクトリに保存されます。インストールプログラムには、このディレクトリに対する書き込み権限が必要です。

- c. **Enter** キーを押して、インストールプログラムを起動します。
- d. 画面の指示に従って、[インストールの開始] ダイアログボックスに達するまで、インストール設定を入力します。
- e. [次へ] をクリックします。
インストールプログラムは自動的に終了します。インストールのすべてのパラメータ (ユーザー定義のパラメータとデフォルトパラメータ) は、指定したディレクトリに保存される .ini ファイルに記録されます。

① Note

GUI インストールプログラムで応答ファイルを作成する場合、GUI を介して入力したライセンスキーおよびすべてのパスワードはプレーンテキスト形式の応答ファイルには書き込まれません。サイレントインストールを実行する前に、アスタリスク (*****) の部分を実際のパスワードに置き換える必要があります。

2. 応答ファイルを編集し、適切なパスワードによってアスタリスクを置換します。
3. 以下のコマンドを使用して、.ini ファイルを使用するサイレントインストールを実行します。

```
setup.exe -r <responsefilepath%filename.ini>.ini
```

インストールログファイルは、 <INSTALLDIR>%InstallData%logs%<DATEandTIME> に保存されます。

① Note

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP2 以前のバージョンから、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP3 以降のバージョンにアップデートすると、既存のライセンスは無効なライセンスとして機能します。SAP Service Marketplace から SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 アップデートの新しいライセンスキーを申請す

る必要があります。 <https://support.sap.com/keys-systems-installations/keys.html> にアクセスしてください。

新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、 <http://scn.sap.com/docs/DOC-70095> にアクセスしてください。

システムを SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 アップデートにアップデートしたら、セントラル管理コンソールにログオンして、新しいライセンスキーを追加する必要があります。

セントラル管理コンソールに新しいライセンスキーを追加するまで、特定のサーバは無効な状態です。

詳細については、**Business Intelligence** プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

① Note

- **Web アプリケーションデプロイメント** ウィンドウで、適切な Web アプリケーションデプロイメントのラジオボタンを選択します。
- 基本インストールにデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバが存在する場合、Business Intelligence プラットフォームインストーラに [Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウが表示されます。存在しない場合は、[Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウは表示されません。
 - [Web アプリケーションを今すぐデプロイする] ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツがデプロイされます。
 - [Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツはデプロイされません。
 - BI プラットフォームおよびその他のクライアント製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択することをお奨めします。ご使用のシステムに最後のクライアント製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを今すぐデプロイする] ラジオボタンを選択してください。これを選択すると、システムダウンタイムが全体的に短縮されます。

5.4 Windows でアップデートをアンインストールする

アップデートは、インストールした順序とは逆順に、一度に1つずつアンインストールできます。アップデートをアンインストールした場合は、デプロイメントを使用する前に、デプロイメント内のすべての製品が同じバージョンになっていることを確認してください。

バンドルされたバージョンの Tomcat をインストールしている場合、アップデートの WAR ファイルはアンインストールプログラムによって自動的にアンインストールされ、旧バージョンの WAR ファイルが自動的に復元されます。

バンドルされている Web アプリケーションサーバを使用していない場合は、アップデートをアンインストールする前に、すべての BI プラットフォーム Web アプリケーションをアンデプロイすることをお勧めします。アンデプロイは、手動または WDeploy ツールを使用して行うことができます。

① Note

アンインストールプログラムは、CMS を 4.2 デプロイメントから 4.0 または 4.1 デプロイメントに戻しません。次の製品のアップデートをアンインストールする場合は、アンインストールの完了後に、CMS データベースをバックアップから手動で復元する必要があります。

- BI プラットフォーム
- 情報プラットフォームサービス
- SAP Crystal Server
- SAP BusinessObjects Explorer

① Note

SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.2 SP4 のアンインストールまたはダウングレードの前提条件

- SAP BusinessObjects BI プラットフォームをアンインストール、あるいは 4.2 SP4 から 4.2 SP3 に、または 4.1 の下位バージョンから 4.0 にダウングレードする場合は、CMC から BI プラットフォーム 4.2 SP4 に関する新しいライセンスキーを必ず削除してください。
- 新しいライセンスキーを削除せずに 4.2 SP4 の SAP BusinessObjects BI プラットフォームをアンインストールした場合は、キーを削除するためのスクリプトを実行してください。スクリプトによるキーの削除の詳細については、SAP ノート [2276413](#) を参照してください。

⚠ Caution

SAP ノート [2501649](#) – 既知のエラー: SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.1 SP10 および 4.2 SP04 リリースの最新アップデートによって影響を受ける SAP BusinessObjects 製品の変更/修復/アンインストール (Modify/repair/uninstall of SAP BusinessObjects products affected due to latest update of SAP BusinessObjects BI platform 4.1 SP10 and 4.2 SP04 release) に留意してください。

1. Windows の [スタート] から [設定] をポイントし、[コントロール パネル] を選択します。
2. [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
3. プログラムの一覧からメンテナンスエントリを強調表示して、[変更と削除] をクリックします。
[アプリケーションのメンテナンス] ダイアログボックスが表示されます。
4. [削除] を選択して、[はい] をクリックします。
5. 適切なファイルの削除と設定が終了するまで、しばらく待ちます。[完了] をクリックします。

アップデートをアンインストールした後、<INSTALLDIR>\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\warfiles にある旧バージョンの WAR ファイルを Web アプリケーションサーバに再デプロイできます。デプロイメントのすべてのコンポーネントのバージョンレベルが同じである必要があります。

詳細については、Web アプリケーションデプロイメントガイドの wdeploy または手動デプロイメントの手順を参照してください。

6 UNIX でのアップデートインストール

このアップデートをインストールしているマシンのリソースを解放するには、アップデートをインストールする前に、セントラル管理コンソール (CMC) を使用して、マシン上のすべての BI プラットフォームサーバを停止します。ただし、以下を除きます。

- Server Intelligence Agent (SIA)
- Central Management Server (CMS)
- Input/Output File Repository Server (FRS)
- CMS システム データベース

これらのサービスおよびサーバはインストールを続けるために動作し続ける必要があります。

① Note

サーバコンポーネントを更新する場合は、CMS ログオン認証情報を入力する必要があります。これは、サーバ プロパティのローカライズされた文字列など、CMS データベースに格納されているコンテンツを更新するために必要です。

① Note

Secure Sockets Layer (SSL) が有効化されている場合は、インストールを続行できません。アップデートをインストールするマシンで、SSL が有効化されている場合は、インストールを行う前に SSL をオフにする必要があります。インストールの完了後に、SSL をオンに戻します。

Related Information

[プラットフォームのサポート \[9 ページ\]](#)

6.1 UNIX に BI プラットフォームサーバのアップデートをインストールする

1. アップデートインストールプログラムが含まれるディレクトリから次のコマンドを実行して、インストールを開始します。

```
./setup.sh
```

2. [\[インストールフォルダの設定\]](#) ウィンドウで、インストールディレクトリを入力します。アップデートは、フルインストールと同じディレクトリにインストールする必要があります。たとえば、BI プラットフォームのインストールでは、このディレクトリにはスクリプト `modifyOrRemoveProducts.sh` が含まれます。インストールプログラムによって、BI プラットフォームをマシンにインストールできるようにする前提条件チェックが開始されます。

3. **[前提条件のチェック]** ウィンドウで、前提条件チェックの結果を確認します。インストールを続行する場合は、**Enter** キーを押します。
4. **インストールウィザード** ウィンドウで、表示された指示を確認し、**Enter** キーを押します。
5. **[使用許諾契約]** ウィンドウで、エンドユーザ使用許諾契約の内容を確認して、使用許諾契約に同意し、**Enter** キーを押します。
6. **[新しいライセンスキー要件]** ウィンドウで、新しいライセンスキー要件の内容を確認して、**Enter** キーを押します。

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP3 以前のバージョンから、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP4 以降のバージョンにアップデートすると、既存のライセンスは無効なライセンスとなります。SAP Service Marketplace から SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 アップデートの新しいライセンスキーを申請する必要があります。 <https://support.sap.com/keys-systems-installations/keys.html> にアクセスしてください。

新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-70095> にアクセスしてください。

システムを SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 アップデートにアップデートしたら、セントラル管理コンソールにログインして、古いライセンスキーを削除し、新しいライセンスキーを追加する必要があります。または、スクリプトを実行して、ライセンスキーを削除することができます。スクリプトによるキーの削除の詳細については、SAP ノート [2276413](#) を参照してください。

① Note

セントラル管理コンソールに新しいライセンスキーを追加するまで、すべてのサービスは無効な状態です。

詳細については、**Business Intelligence** プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

7. アップデートにサーバコンポーネントが含まれている場合は、**[既存の CMS デプロイメント情報]** ウィンドウが表示されます。CMS 管理者パスワードを入力し、**Enter** キーを押します。
8. **インストールモードの選択** ウィンドウで、**[標準インストール]** オプションを選択します。
9. **Web アプリケーションデプロイメント** ウィンドウで、適切な Web アプリケーションデプロイメントのオプションを選択します。

① Note

基本インストールにデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバが存在する場合、Business Intelligence プラットフォームインストーラに **[Web アプリケーションデプロイメント]** ウィンドウが表示されます。存在しない場合は、**[Web アプリケーションデプロイメント]** ウィンドウは表示されません。

- **[Web アプリケーションを今すぐデプロイする]** ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバがデプロイされます。
 - **[Web アプリケーションを後でデプロイする]** ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバはデプロイされません。
 - BI プラットフォームおよびその他のクライアント製品をインストールする場合は、**[Web アプリケーションを後でデプロイする]** ラジオボタンを選択することをお奨めします。ご使用のシステムに最後のクライアント製品をインストールする場合は、**[Web アプリケーションを今すぐデプロイする]** ラジオボタンを選択してください。これを選択すると、システムダウンタイムが全体的に短縮されます。
10. **[インストールの開始]** ウィンドウで、**Enter** キーを押してインストールを開始します。進行状況インジケータに、インストールのステータスが表示されます。

インストールが完了すると、メッセージが表示されます。このメッセージには、インストール後の指示も含まれている場合があります。

① Note

アップデートの一部として Web アプリケーションが修正される場合は、元の BI プラットフォームのインストール時に選択したオプションに応じて、インストール後の画面に .war ファイルを再デプロイする手順が表示される場合があります。

11. `Enter` キーを押して、インストールを完了します。
インストールの詳細を確認するには、`<INSTALLDIR>/InstallData/logs/<DATEandTIME>/`にあるインストールログファイルの内容を確認します。

6.2 Silent installation on UNIX

6.2.1 UNIX で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する

更新は、応答ファイルを使用してサイレントインストールできます。

サイレントインストールは、特に、複数のインストールをすばやく実行したりインストールを自動化したりする場合に便利です。

応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行するには、まず応答ファイルを作成する必要があります。

次の手順では、インストールプログラムを使用して応答ファイルを作成する方法を示します。応答ファイルを作成したら、応答ファイルのパスを指定して `./setup.sh` コマンドを実行することにより、サイレントインストールを実行できます。

① Note

応答ファイルを使用してサイレントインストールを実行している場合、対象となるアップデートまたはパッチのインストールパッケージから `setup.sh` ファイルを使用して応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルは、アップデートインストールとパッチインストールの間で共有することはできません。

1. 応答ファイルを作成する。
 - a. パッチインストールソースファイルが保存されているディレクトリから、書き込みオプション (`-w`) を指定して `./setup.sh` コマンドを実行します。

```
./setup.sh InstallDir=<INSTALLDIR> -w <responsefilepath/filename.ini>
```

ここで、`<INSTALLDIR>` は BI プラットフォームのインストールディレクトリで、`<responsefilepath/filename.ini>` は作成する応答ファイルのパスおよびファイル名です。

- b. `Enter` キーを押して、インストールプログラムを起動します。
- c. 画面の指示に従ってインストール設定を入力し、セットアッププログラムの `[インストールの開始]` ダイアログボックスが表示されたら `Enter` キーを押します。
これらの設定は、応答ファイルに記録されます。

① Note

GUI インストールプログラムで応答ファイルを作成する場合、GUI を介して入力したライセンスキーおよびすべてのパスワードはプレーンテキスト形式の応答ファイルには書き込まれません。サイレントインストールを実行する前に、アスタリスク (*****) の部分を実際のパスワードに置き換える必要があります。

2. 応答ファイルを編集し、適切なパスワードによってアスタリスクを置換します。
3. 以下のコマンドを使用して、.ini ファイルを使用するサイレントインストールを実行します。

```
./setup.sh InstallDir=<INSTALLDIR> -r <responsefilepath>/filename.ini  
<responsefilepath>/filename.ini は、作成する応答ファイルのパスとファイル名です。
```

インストールログファイルは、<INSTALLDIR>/InstallData/logs/<DATEandTIME>/ に保存されます。

① Note

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP1 以前のバージョンから、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP2 以降のバージョンにアップデートすると、既存のライセンスは無効なライセンスとして機能します。SAP Service Marketplace から SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 アップデートの新しいライセンスキーを申請する必要があります。 <https://support.sap.com/keys-systems-installations/keys.html> にアクセスしてください。

新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-70095> にアクセスしてください。

システムを SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 アップデートに更新したら、セントラル管理コンソールにログオンして、古いライセンスキーを削除し、新しいライセンスキーを追加する必要があります。または、スクリプトを実行して、ライセンスキーを削除することができます。スクリプトによるキーの削除の詳細については、SAP ノート [2276413](#) を参照してください。

セントラル管理コンソールに新しいライセンスキーを追加するまで、特定のサーバは無効な状態です。

詳細については、**Business Intelligence** プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

① Note

- [Web アプリケーションデプロイメント](#) ウィンドウで、適切な Web アプリケーションデプロイメントのラジオボタンを選択します。
- 基本インストールにデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバが存在する場合、Business Intelligence プラットフォームインストーラに [Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウが表示されます。存在しない場合は、[Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウは表示されません。
 - [Web アプリケーションを今すぐデプロイする] ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツがデプロイされます。
 - [Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツはデプロイされません。
 - BI プラットフォームおよびその他のクライアント製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択することをお奨めします。ご使用のシステムに最後のクライアント製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを今すぐデプロイする] ラジオボタンを選択してください。これを選択すると、システムダウンタイムが全体的に短縮されます。

6.3 UNIX でアップデートをアンインストールする

アップデートは、インストールした順序とは逆順に、一度に1つつアンインストールできます。アップデートをアンインストールした場合は、デプロイメントを使用する前に、デプロイメント内のすべての製品が同じバージョンになっていることを確認してください。

バンドルされたバージョンの Tomcat に WAR ファイルをインストールした場合、それらのファイルはアンインストールプログラムによって自動的にアンインストールされ、旧バージョンの WAR ファイルが自動的に復元されます。

バンドルされている Web アプリケーションサーバを使用していない場合は、アップデートをアンインストールする前に、すべての BI プラットフォーム Web アプリケーションをアンデプロイすることをお勧めします。アンデプロイは、手動または WDeploy ツールを使用して行うことができます。

① Note

アンインストールプログラムは、CMS を 4.2 デプロイメントから 4.0 または 4.1 デプロイメントに戻しません。次の製品のアップデートをアンインストールする場合は、アンインストールの完了後に、CMS データベースをバックアップから手動で復元する必要があります。

- BI プラットフォーム
- 情報プラットフォームサービス
- SAP Crystal Server
- SAP BusinessObjects Explorer

① Note

SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.2 SP4 のアンインストールまたはダウングレードの前提条件

- SAP BusinessObjects BI プラットフォームをアンインストール、あるいは 4.2 SP4 から 4.2 SP3、4.1、または 4.0 にダウングレードする場合は、CMC から BI プラットフォーム 4.2 SP4 に関する新しいライセンスキーを必ず削除してください。
- 新しいライセンスキーを削除せずに 4.2 SP4 の SAP BusinessObjects BI プラットフォームをアンインストールした場合は、キーを削除するためのスクリプトを実行してください。スクリプトによるキーの削除の詳細については、SAP ノート [2276413](#) を参照してください。

⚠ Caution

4.2 SP4 で未解決の問題について、以下の SAP ノートを参照してください。

[2446171](#) – modifyOrRemoveProducts.sh が SAP BusinessObjects Suite インストーラの Linux プラットフォームでメンテナンス画面を表示しない (modifyOrRemoveProducts.sh does not display the Maintenance screen on the Linux platform for SAP BusinessObjects Suite of Installers)

1. アップデートをアンインストールするには、BI プラットフォームのインストールディレクトリから次のコマンドを実行します。

```
./modifyOrRemoveProducts.sh
```

[プログラムの追加と削除] ダイアログボックスが表示されます。

2. 削除するアップデートを選択し、**Enter** キーを押します。

Central Management Server 認証情報の入力が必要になります。

3. CMS 認証情報を入力し、[Enter] キーを押して続行します。
4. [製品をアンインストールします] を選択し、[Enter] キーを押します。
確認ダイアログボックスが表示されます。
5. [はい] を選択し、[Enter] キーを押します。
アンインストール処理が開始されます。

アップデートをアンインストールした後、<INSTALLDIR>/sap_bobj/enterprise_xi40/warfiles にある旧バージョンの WAR ファイルを Web アプリケーションサーバに再デプロイできます。デプロイメントのすべてのコンポーネントのバージョンレベルが同じである必要があります。

4.2 アップデートインストールから 4.0 または 4.1 インストールに戻すには、4.0 または 4.1 データベースをバックアップから復元する必要があります。SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。



詳細については、Web アプリケーションデプロイメントガイドの WDeploy または手動デプロイメントの手順を参照してください。

Important Disclaimers and Legal Information

Hyperlinks

Some links are classified by an icon and/or a mouseover text. These links provide additional information.

About the icons:

- Links with the icon  : You are entering a Web site that is not hosted by SAP. By using such links, you agree (unless expressly stated otherwise in your agreements with SAP) to this:
 - The content of the linked-to site is not SAP documentation. You may not infer any product claims against SAP based on this information.
 - SAP does not agree or disagree with the content on the linked-to site, nor does SAP warrant the availability and correctness. SAP shall not be liable for any damages caused by the use of such content unless damages have been caused by SAP's gross negligence or willful misconduct.
- Links with the icon  : You are leaving the documentation for that particular SAP product or service and are entering an SAP-hosted Web site. By using such links, you agree that (unless expressly stated otherwise in your agreements with SAP) you may not infer any product claims against SAP based on this information.

Videos Hosted on External Platforms

Some videos may point to third-party video hosting platforms. SAP cannot guarantee the future availability of videos stored on these platforms. Furthermore, any advertisements or other content hosted on these platforms (for example, suggested videos or by navigating to other videos hosted on the same site), are not within the control or responsibility of SAP.

Beta and Other Experimental Features

Experimental features are not part of the officially delivered scope that SAP guarantees for future releases. This means that experimental features may be changed by SAP at any time for any reason without notice. Experimental features are not for productive use. You may not demonstrate, test, examine, evaluate or otherwise use the experimental features in a live operating environment or with data that has not been sufficiently backed up.

The purpose of experimental features is to get feedback early on, allowing customers and partners to influence the future product accordingly. By providing your feedback (e.g. in the SAP Community), you accept that intellectual property rights of the contributions or derivative works shall remain the exclusive property of SAP.

Example Code

Any software coding and/or code snippets are examples. They are not for productive use. The example code is only intended to better explain and visualize the syntax and phrasing rules. SAP does not warrant the correctness and completeness of the example code. SAP shall not be liable for errors or damages caused by the use of example code unless damages have been caused by SAP's gross negligence or willful misconduct.

Bias-Free Language

SAP supports a culture of diversity and inclusion. Whenever possible, we use unbiased language in our documentation to refer to people of all cultures, ethnicities, genders, and abilities.

© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

No part of this publication may be reproduced or transmitted in any form or for any purpose without the express permission of SAP SE or an SAP affiliate company. The information contained herein may be changed without prior notice.

Some software products marketed by SAP SE and its distributors contain proprietary software components of other software vendors. National product specifications may vary.

These materials are provided by SAP SE or an SAP affiliate company for informational purposes only, without representation or warranty of any kind, and SAP or its affiliated companies shall not be liable for errors or omissions with respect to the materials. The only warranties for SAP or SAP affiliate company products and services are those that are set forth in the express warranty statements accompanying such products and services, if any. Nothing herein should be construed as constituting an additional warranty.

SAP and other SAP products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of SAP SE (or an SAP affiliate company) in Germany and other countries. All other product and service names mentioned are the trademarks of their respective companies.

Please see <https://www.sap.com/about/legal/trademark.html> for additional trademark information and notices.